

事業計画書

1 事業名

●●プロジェクト（仮）

2 背景、事業目的（主旨）

- ・海洋ごみは海に流出すると回収が難しくなるため、陸にある時点で回収することが望ましい。
- ・●●県には2級河川が3つあるが、●市町村にまたがり、●万人の流域人口を有する●●川から流れ込むごみは推定●tが見込まれ、特に海洋に与える影響が大きく管理が課題となっている。
- ・課題解決には流域全体での活動展開と、漁期や農期、草木の繁茂、豪雨等の時期や見定め、近隣住民の理解を得られる活動が求められている。
- ・そのため今回の事業では、流域をまたぐ基礎自治体の連携を前提として、定期的な清掃活動による流域管理モデルとして実証する。
- ・また、活動に際し、●●業界で●●の専門性を有するボランティアや地域住民、学生を巻き込むことで、地域人材の育成も進め、効率的かつ継続的な活動の基盤を整える。

3 事業目標（定性的な目標）

- ・河川流域の基礎自治体すべてにおける、連携体制の構築
- ・梅雨・台風時期前のごみ回収活動を定期実施するための仕組みづくり
- ・地域のプロボランティア人材の育成（作業面、コーディネート面）

目指す数値成果（定量的な目標）

※瀬戸内4県における戦略的なごみ回収の推進：参加人数、ごみ回収量、生産性など

地域循環型社会形成：プラスチック削減量、工程短縮、コスト削減など

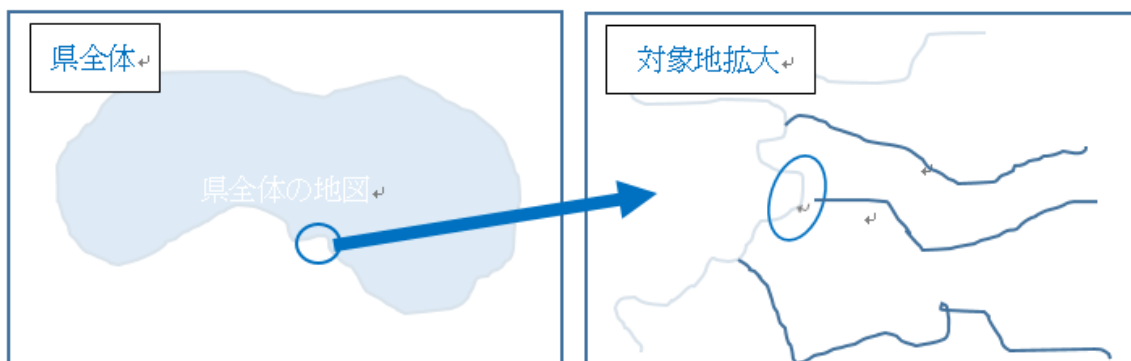
- ・河川ごみの回収量合計●t
- ・●市町村にて、合計●回の回収活動を実施、参加人数合計●人
- ・専門的なボランティア人材の育成●人。SNS●における発信●回、インプレッション数●

回、

その内内、リアクション（●●）数●回

4 事業予定期間 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日

5 主な事業実施予定場所（可能な場合は地図を添付してください。）



6 事業の具体的な内容（記載しきれない場合は別紙を添付してください。）

- ①●市町村との連携調整と、体制構築。定例化に向けた要件整理と活動計画フォームの作成。
- ②●●川流域における川岸の漂着ごみ、河川敷のポイ捨てごみの回収活動合計●回実施。合計●tのごみを回収し、実質的な海洋ごみの削減。
- ③地域の専門的ボランティア団体・人材育成として、回収活動の事前、事後で勉強会を●回実施。海洋ごみ回収のリーダーとなるための知識習得と、実地活動や啓発発信等の広報活動実施。
- ④本事業終了後に向けた、スポンサーの確保（2社）

※詳細は別紙参照

- 7 実施体制（記載しきれない場合は別紙を添付してください。）
- ※実施体制について図示等により記載してください。なお、複数の事業者が本補助事業を共同で実施する場合及び他の事業者等が本補助事業に参画する場合は、それぞれの役割分担を明示してください。

●●社

●●社●●部、流域●市町村

(一社)●●、●●県●●部

●●推進員

(特非)●●

各町内会、地域住民、企業

- 8 実施スケジュール
- ※事業の 各行政、産廃業者 めなど一連のスケジュールを記載してください。他のフォームで記載しても構いません。

年	月	実施内容	備考
R 5	9	プレ清掃事前調査、主要メンバーキックオフ	
	1 0	関係者調整、プレ清掃準備	この週1回発信開始
	1 1	地域勉強会①実施、●●市プレ清掃実施	
	1 2	作業性検証、詳細企画立案、関係者調整	
R 6	1	地域勉強会②実施 事前調査、関係者打合せ、準備	
	2	事前調査、関係者打合せ、準備	
	3	●●川流域清掃実施（●●市、●●市、●●市） 作業性検証、関係者打合せ	
	4	●●川流域清掃実施（●●市、●●市、●●市） 作業性検証、関係者打合せ	
	5	●●川流域清掃実施（●●市、●●市、●●市） 作業性検証、関係者打合せ	
	6	地域勉強会③実施 効果検証、分析	
	7	定期活動モデルの要件整理、計画提案	
	8	成果まとめ	